

活動趣旨・内容が分かる資料

だんだん食堂事務局

「だんだん食堂・多世代交流サロン」は大阪市城東区森之宮地域を拠点に活動する「だんだん食堂」と「多世代交流サロン」が合流して成立した地域活動の任意団体です。

「だんだん食堂」は平成31年度大阪市役所市民局助成事業「団地の団欒食堂（だんだん）」として誕生しました。（添付資料「平成31年度市民局助成事業実績報告書」参照）

平成31年度、令和2年度、令和3年度の3年間継続して市民局から助成していただき活動を続けてきました。助成が終了する3年後には自立した地域活動組織になれるよう当初から計画的に努力を重ねてきました。助成1年目は「地域食堂」として活動できましたが、2年目・3年目はコロナ禍感染症対策で「食堂事業」の自粛が要請され、「研修事業」のみの片肺活動とはなりました。「食堂事業」を補完する活動として「地域こども支援ネットワーク事業」さんの支援物資配布活動にも協力させてもらってきました。（添付資料「令和2年度市民局助成事業実績報告書」、「令和3年度市民局助成事業実績報告書」参照）

「多世代交流サロン」は平成31年度に大阪府共同募金の助成事業として誕生した「もりもり教室」の多世代交流部門がルーツです。国際交流部門が「もりこくサロン」として令和2年度にすでに組織として独立しておられ、多世代交流部門は中途半端に残っておりました。令和4年度は「だんだん食堂」と「多世代交流サロン」とが自立した地域活動任意団体として「幼老共生ケアと地域大家族」をスローガンに地域の多世代のための居場所を月1回定例の「お誕生会」を団地集会所を「居場所」に開設します。まずは「傾聴活動」を中心としたお誕生日の頃の思い出話を多世代でゆっくり語り合う機会を設けられればと考えています。

コロナ禍が収まり、スタッフ数など条件が整えば、「食堂活動」も徐々に再開し参加人数を増やしたり多世代交流サロン活動の経験を活かし開催イベント数を増やしたいです。そして、自分の生い立ちや地域の歴史や地理を書いた「地域物語」を多世代で協力してまとめていきたいです。そして成果物はデジタルな形でみんなに閲覧してもらえるような「デジタルライブラリー」に蓄積していきたいものと夢見ています。

森之宮地域の地域活動組織は、高齢者中心の「団地の寺子屋」活動、「子育てサロン」活動があり、若いパパ中心の「もりこくサロン」があり、今回から若いママ中心の「だんだん食堂・多世代交流サロン」活動が加わり百花繚乱となります。2～3年後には昼間人口6千人を超える大学生たちもプレイヤーに加わってもらえればますます盛んになる事でしょう。

添付ファイル

1. 「平成31年度市民局助成事業実績報告書」
2. 「令和2年度市民局助成事業実績報告書」
3. 「令和3年度市民局助成事業実績報告書」
4. 多世代交流サロン「令和2年度大阪コミュニティ財団助成事業報告書」

事業の名称	団地の団欒食堂
事業の実施場所	大阪市城東区森之宮 2 丁目 6 番 UR 森之宮第二団地 第一集会所
<p>事業の実績</p> <p>※サービスの利用者数や従業者数など、できるだけ詳細に記入してください。</p> <p>※事業内容が分かるパンフレットその他資料があれば、添付してください。</p>	<p>第 1 回 5 月 24 日 32 名 第 2 回 6 月 14 日 25 名 第 3 回 9 月 13 日 45 名 第 4 回 10 月 10 日 32 名 第 5 回 10 月 25 日 48 名 (ハロインナイト) 第 6 回 11 月 8 日 27 名 第 7 回 12 月 20 日 36 名 第 8 回 1 月 10 日 25 名 第 9 回 2 月 20 日 32 名 第 10 回 3 月 13 日 15 名 第 11 回 3 月 20 日 16 名 第 12 回 3 月 27 日 15 名 11 月 1 日 広報講習会① 3 名 12 月 13 日 広報講習会② 3 名 市民局交流会 4 名 市社協「子ども食堂衛生管理講座」3 名 市民局インターネットテレビ出演 3 名 市民局中間報告会 3 名</p>
事業の課題と方向性	<p>UR 賃貸住宅を中心とした地域で「幼老共生」「地域家族」を目指す活動を進める「団地の寺子屋」を母体に活動を始めた「だんだん食堂」</p> <p>コミュニティづくりの担い手さんを発掘し育てることを目指した。</p> <p>だんだん食堂の参加者は延べ 348 名(乳幼児無料を含む)、調理・育児有償ボランティアママさん延べ 38 人にもなり地域でのコミュニティづくりの担い手さんが育ってきている。地域の賛同者の協力で調理器具や食器類が予想以上に寄せられ当初予算を下回ったが、食材費が予算オーバーとなった。</p>
今後の事業計画	<p>今年度の経験を活かしながら、「地域子ども支援ネットワーク」や企業などの食材支援を利用する。</p> <p>育ちつつある担い手さんが、市民局、市社協、区社協などの交流会、講習会などにも参加できるように子守り体制も工夫しながら地域コミュニティづくりの若い担い手さんづくりを目指す。</p>



2019年5月24日(金) 祝「団地の団樂食堂(だんだん)」開店

だんだん食堂は『平成31年度大阪市市民活動推進助成事業』です。

あらかじめ登録した子育て世代3人が一組になってシフトを組み、調理と保育を担当してみんなの昼食を作ります。できた昼食は高齢者世代や子育て世代と乳幼児でいただきます。

そんな「だんだん食堂」の1回目が昨年末からの準備期間を経てついに今日、開店の運びとなりました。

事業のねらいは、高齢者世代、子育て世代と乳幼児たちが食を通して仲良くなって地域コミュニティを豊かにすることです。食料金は大人五百円、乳幼児は無料で、調理と保育は子育て世代による有償ボランティア制です。三年先には自立した地域活動になるよう企画・運営しています。

調理器具や食器の寄付など事業を支援してくださるみなさん、ありがとうございます。引き続きご支援よろしくお願いたします。



2回目：6月14日(金) 実施



<https://kyodo-portal.city.osaka.jp/author/951248/?uid=137> http

団地の団楽食堂(だんだん)

団体名: 団地の寺子屋

[助成額: 96,000 円]

ホームページ等 URL: <https://www.facebook.com/danntinoterakoya/>

【事業の目的】

UR 森之宮団地で「幼老共生ケアと地域大家族」をめざす『団地の寺子屋』を母体に、子育て中のママさんを調理・育児有償ボランティアとし、地域の高齢者、乳幼児ごちゃまぜの「地域食堂」を立ち上げることにより、結婚、出産などでこの団地に越してこられ、この地域に縁のなかった層の地域でのコミュニティづくりの担い手さん発掘をめざした。



【事業の紹介】

会場: UR 森之宮第二団地 第一集会所

開催日・参加者数: 第1回 5月24日 32名、第2回 6月14日 25名、第3回 9月13日 45名

第4回 10月11日 32名、第5回 10月25日 48名(ハロインナイト)

第6回 11月8日 27名、第7回 12月20日 36名、第8回 1月10日 25名

第9回 2月14日 32名、第10回 3月13日 15名、第11回 3月20日 16名

第12回 3月27日 15名 コロナ禍により3月の高齢者の参加は減少しました。

市民局活動交流報告会4名、市民局インターネットテレビ出演3名

市民局中間報告会3名、大阪市社協「子ども食堂衛生管理講座」3名

広報講習会2回連続講座 3名×2回=6名

【事業実施の成果】

12回開催することが出来、延べ参加者 348名

お一人暮らしの高齢者からは「みんなで食事するのがこんなに楽しいとは」と言いながら、日ごろは少食にも関わらず、笑顔でおかわりする人もあり、コロナ禍で活動自粛中も「いつ開くの？」と期待の声が寄せられています。

結婚、出産などを機にこの団地に転居してこられた子育てママさん、この活動に参加する中で確実に地域コミュニティ活動の担い手さんとして、子供の成長に伴い、幼稚園の保護者会、小学校のPTA役員活動などへの積極的参加が見られるようになりました。



【今後の展望と課題】

コロナ禍のもと特に高齢者の参加は慎重にならざるを得ないこともあり、事態の推移を注視しています。

課題としては、これから更なる広報活動を行っていき参加者が増えることを想定して、「調理場の衛生環境整備」を大家であるURへ依頼しており、実現できるよう交渉します。また、事業資金について、食事の質の向上をめざしつつ食材提供ルートを確保するなど、コストを削減し自立した運営の確立をめざします。

令和2年度〔大阪市民活動推進事業実績報告書〕 2021年3月15日

※枠内に収まらない場合は、適宜枠を拡げてください。

<p>事業の名称</p>	<p>「団地の団欒食堂（だんだん）」</p>
<p>事業の実施場所</p>	<p>大阪市城東区森之宮2丁目 UR 森之宮第2団地6号棟集会所</p>
<p>事業の実績</p> <p>※事業実施日 イベント名称 参加者・利用者の数 従事者数 事業実施内容 参加者からの声など、 できるだけ詳細に記入し てください。</p> <p>※事業案内 周知チラシ ポスター パンフレット その他資料について、 <u>助成対象事業経費にて作成された場合は必ず、</u> 対象外経費で作成された ものは可能な限り、添付 してください。</p>	<p>▲ だんだん食堂事業2年目(2020年)予定 地域食堂の開催:毎月1回(平日)年間12回、土日に2回、合計年間14回 地域食堂を開催する。ママたち3名編成2チーム6名体制で地域食堂を 運用する。 研修会の開催:地域食堂広報活動のため講師を呼んで勉強会を年間3回 開催する。</p> <p>▲ だんだん食堂事業2年目(2020年)実績 2020年4月3日:臨時役員会コロナ禍の自粛要請を受け「団地の寺子屋」 金曜日午前中の本体活動と保育園との交流活動を当面休止すると決定。 これに伴い「だんだん食堂事業」も当面休止。(※写真1:子ども支援ネット ワークを通じて配給される支援食糧や物資の配布業務に協力) 2020年6月26日:5月中はUR集会所閉鎖のため活動全面休止。6月に 再開し団地の寺子屋定例総会。コロナ禍のため共同調理や多人数での会 食を伴うだんだん食堂事業の当面休止継続を決定。 その後集会所閉鎖は解かれたが当面「飲食自粛」が続き、コロナ禍が下火 になれば1月~3月期に①食堂事業は規模を縮小して実施、②研修会事 業を予定通り実施することの2点を中間報告し、講師と勉強会内容の打ち 合わせを開始。 2021年1月14日:大阪府下に2度目の緊急事態宣言が発出され集会所 がURにより再度閉鎖。食堂事業は延期、研修会事業は対面形式を避け オンライン型式での実施に向けて講師と打ち合わせを継続。 2021年3月1日:大阪府下の緊急事態宣言解除に伴いUR集会所の閉鎖 も解除。団地の寺子屋活動は規模を縮小して再開されたが、引き続きコロ ナ禍の危険性が高いので食堂事業は中止、研修会事業は対面方式で実 施を役員会で決定。(※3月行事予定チラシ)</p> <p>2021年3月19日(金)第1回「だんだん食堂広報勉強会」実施(※写真2) 2021年3月26日(金)第2回「だんだん食堂広報勉強会」実施(※写真3) 2021年3月29日(月)第3回「だんだん食堂広報勉強会」実施(※写真4)</p>
<p>事業の課題と方向性</p>	<p>当初「居場所」を中心とした活動を想定していたので、本年度はコロナ禍に より「居場所」の集会所が閉鎖となったため十分な活動が出来なかった。事 業の課題と方向性を3点にまとめた。</p> <p>① 三密になる食事提供方式を、より簡易な軽食提供方式に改める。 ② 「食事提供」にこだわらず、簡便なLineやSNSの活用、やや高度なオ ンライン方式などを活用した「情報提供・情報共有」にも努力を傾注させる。 ③ 地域内の住民に目を向けるだけでなく、地域外の団体・社会資源にも 視野を広げ、②の方法も活用して団体間・活動間の連携を深める。 コロナ禍の早期の終息は望めず、また収束しても元のような地域活動に戻 ることはほぼ考えられないと言われている。 事業に工夫を重ね「子育て世代を地域福祉の新しい担い手として発掘し育 成する」という当初の方向性で事業を持続させる。</p>

今後の事業計画

団地集会所をみんなの「居場所」とし、そこでの「食」を中心に密な人間関係を築いてきたのが従来の「だんだん食堂」だった。コロナ禍中の今、「情報」の共有と蓄積・活用を中心とした密な人間関係の構築という新しい方向が「だんだん食堂」の活動を通して見えつつある。密な人間関係を基盤とする「地縁型」の地域活動がコロナ禍で停滞する中、情報共有を基盤とする「テーマ型」の市民活動が元気で活発だ。「だんだん食堂」の活動は半ば地縁型であり半ばテーマ型だ。「だんだん食堂」をうまく運営していくことでその目指す状態像が、大阪の地縁型の組織にもテーマ型の組織にも参考にしていただける輝く何かが生み出せそうだ。他の団体と運営方法等を交流し合う中からそれらの実践知を結晶させることがめざす今後の事業計画の状態である。

(* 写真1) ↓ 子ども支援ネットワークを通じて配給される支援食糧や物資の配布業務に協力



← 企業から届いた支援物資(飲料やお菓子等)

社協からの資金で団地内の食堂にお弁当を
発注し子育て世代や高齢者世代に配布 →

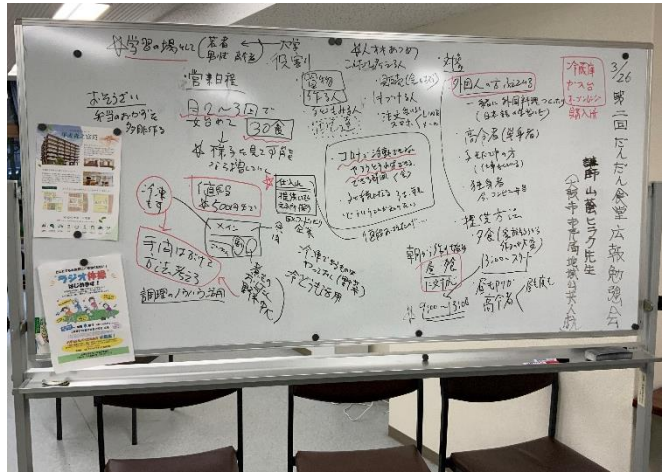


← 閉鎖されてしまった集会所前での
支援物資配布作業の様子

(*写真2) ↓ 2021年3月19日(金)第1回「だんだん食堂広報勉強会」実施



(*写真3) ↓ 2021年3月26日(金)第2回「だんだん食堂広報勉強会」実施



(*写真4) ↓ 2021年3月29日(月)第3回「だんだん食堂広報勉強会」実施



(*3月行事予定チラシ) ↓ 「だんだん食堂広報勉強会」の日時を告知しています

「寺子屋通信」2021年3月1日「団地の寺子屋」K4



2021年3月行事予定		活動のテーマ「幼老共生ケアと地域大家族」 「持続可能な地域活動」
祝 3月1日よりUR「集会所」再開、午後の倶楽部等活動を再開します。		
1日(月)		「子育てサロン」午後4時～6時
5日(金)	本体活動自粛中	臨時役員会:午後1時～、「子育てサロン」午後4時～6時
8日(月)		「子育てサロン」午後4時～6時
12日(金)	本体活動自粛中	「川柳倶楽部」、「子育てサロン」午後4時～6時
13日(土)	「もりこくサロン英語教室」Zoom 在宅レッスン	「もりこくサロン日本語教室」Line と Zoom 在宅レッスン
15日(月)		「子育てサロン」午後4時～6時
19日(金)	10:30～11:30: リズム体操 (柿谷先生)	「カラオケ倶楽部」、「子育てサロン」午後4時～6時 「だんだん食堂広報勉強会」午後5時～
20日(土)		「もりこくサロン日本語教室」Line と Zoom 在宅レッスン
22日(月)		「子育てサロン」午後4時～6時
26日(金)	10:30～11:30: 健康教室 (奥平先生)	「書道倶楽部」、「子育てサロン」午後4時～6時 「だんだん食堂広報勉強会」午後5時～
27日(土)	「もりこくサロン英語教室」Zoom 在宅レッスン	「もりこくサロン日本語教室」Line と Zoom 在宅レッスン
29日(月)		「子育てサロン」午後4時～6時 「だんだん食堂広報勉強会」午後5時～

▲ 2月27日朝刊「関西など6府県先行解除決定・緊急事態宣言あすまで」の見出しが躍ります。政府の解除方針決定に伴って、UR集会所利用申し込み受付再開との連絡が入りました。さっそく松井代表が利用申込書を提出、URに承認されれば待ちにまった「集会所利用再開」です!! みんなで感染予防対策を更に徹底させましょう。



2月8日(火): 森之宮保育園新築工事の様子



2月12日(金): 野外投句会「川柳倶楽部」の様子

※枠内に収まらない場合は、適宜枠を拡げてください。

<p>事業の名称</p>	<p>「団地の団楽食堂（だんだん）」</p>
<p>事業の実施場所</p>	<p>UR 森之宮第二団地集会所を中心とした地域</p>
<p>事業の実績</p> <p>※事業実施日 イベント名称 参加者・利用者の数 従事者数 事業実施内容 参加者からの声など、 できるだけ詳細に記入し てください。</p> <p>※事業案内 周知チラシ ポスター パンフレット その他資料について、 <u>助成対象事業経費にて作成された場合は必ず、</u> 対象外経費で作成された ものは可能な限り、添付 してください。</p>	<p>①【事業の計画内容】</p> <p>1. 食堂事業：年間14回（定例毎月1回×12カ月、子ども会1回、クリスマス会1回 計14回）開催。コロナ禍を考慮して調理の簡単な軽食とする。</p> <p>2. 研修事業：年間4回開催（食堂事業を円滑に実施していくうえで世話人として必要な項目について、運営にあたる子育てママ達でテーマと講師を自主的に企画し4回の連続研修を運営する）</p> <p>3. コロナ禍により食堂事業の実施に支障が出る場合、食堂事業の目的である「一緒に食卓を囲むことで、子育て世代同士・高齢者世代同士・乳幼児を含めた多世代間の交流を深め、地域の中に「幼老共生ケアと地域大家族」の意識の高揚を図る」を補完するような活動を子育て世代の若いママ・パパたちを中心に企画・立案し事業実施にあたる。</p> <p>②【上半期の事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団地集会所がコロナ禍でロックアウトのため立ち入れず、食堂事業は事実上中止。子育てママ達は食堂事業を補完する活動をさぐるミーティングと自分たちの研修事業のテーマを探るミーティングに取り組んだ ・ 外部団体との協働として、令和2年度に引き続き「地域子ども支援ネットワーク事業（大阪市社会福祉協議会）」に協力し、毎月1回の子ども支援物資の搬入・配布活動に協力した。 ・ SNSの利用が一時話題になったが、世話人会としては団地内公園でのママ友同士の親しい井戸端会議や自宅での対面の打ち合わせも重視している。 ・ 頻繁な打ち合わせの成果として、任意団体「だんだん食堂」が予定より早く発足できた。 <p>③【下半期の事業実績】</p> <p>1. 食堂事業：新型コロナウイルス感染症まん延等防止重点措置が発表されるなどで食堂事業は事実上中止。</p> <p>2. 研修事業：中間報告会審査委員アドバイスに従って1・2・3月期の感染症がやや下火になった時期を縫って組織の運営や資金調達を学ぶ研修会連続4回実施。</p> <p>3. 食堂事業を補完する活動：</p> <p>① 「地域子ども支援ネットワーク事業（大阪市社会福祉協議会）の子ども支援物資配布活動に協力（団地の寺子屋子育てサロン活動と協働：毎月1回）</p> <p>② 地域スマホ教室開催（団地の寺子屋本体活動と協働：12月17日）</p> <p>③ 写真で見る3年前の団地の寺子屋地域活動（幼老共生ケアをテーマに「だんだん食堂」活動と「保育園との多世代交流活動」を中心にフェイスブック記事の写真で振り返る。（2月から毎週1回「団地の寺子屋」フェイスブック記事にて）</p>
<p>事業の課題と方向性</p>	<p>①【子育てママを中心とした組織の危うさ】 地域の子育てママ達の大多数が共稼ぎ世帯で多くのママが1年間の育休が明けるとすぐに職場復帰する。子育てママ達のライフサイクルに合わせた出入り自由な地域活動の柔軟な組織作りが課題。</p> <p>②【土日・祝祭日中心の活動形態の大切さ】 土日・祝祭日中心の活動形態であれば、復職したママもまた子育てパパたちも出入り自由な地域活動なら参加できる。</p> <p>③【子どもを中心とした活動で地域の多世代交流を図る】 幼老共生ケア・地域大家族・持続可能な地域活動の原点に戻って、子ども中心の多世代交流事業を企画する。</p>
<p>今後の事業計画</p>	<p>3年間の本事業を振り返ると、1年目は食堂事業と研修事業を予定通り実施できたが、2年目・3年目はコロナ禍のため「食堂事業」は中止となり、「研修事業」だけの片肺事業となった。特に3年目はコロナ禍が強く予測されたのだから中心とする事業を変更すべきだったのかもしれないと反省が残る。今後の事業計画ではコロナ禍の影響の継続を予測し、「食堂事業」はサブとして残すが主力は子どもを中心とした「多世代交流事業」に、新しい組織体でもって新たに取り組み始める所存だ。</p>

添付書類

① 研修事業 第1回-1 (令和4年1月17日午後5時~6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



② 研修事業 第1回-2 (令和4年1月17日午後5時~6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



③ 研修事業 第2回一1 (令和4年1月31日午後5時~6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



④ 研修事業 第2回一2 (令和4年1月31日午後5時~6時、団地の寺子屋集会所和室)



⑤ 研修事業 第3回一1 (令和4年2月14日午後5時～6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



Facebook post interface for '団地の寺子屋' (Community Classroom). The post is from 31 minutes ago and contains the following text:

2022年2月14日(月)午後5時～6時、集会所和室で「だんだん食堂」令和3年度第3回勉強会を開催。いろいろ障害がある中「幼老共生ケア・地域大家族」の象徴である「だんだん食堂」をぜひとも継続していこうという温かい雰囲気勉強会は進んでいます。

いいね! コメントする シェア

団地の寺子屋として...

⑥ 研修事業 第4回一1 (令和4年3月14日午後5時～6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



Facebook post interface for '団地の寺子屋' (Community Classroom). The post is from 4 hours ago and contains the following text:

2022年3月14日(月)午後5時～6時、集会所和室で「だんだん食堂」令和3年度第4回勉強会を市民局から小野千佐子先生に来ていただいて開催。集会所和室北側で専用になって伝統の子どもたちも出入り自由な気楽なスタイルの「だんだん食堂」勉強会です。

いいね! コメントする シェア

団地の寺子屋として...

⑦ 研修事業 第4回一2 (令和4年3月14日午後5時~6時、団地の寺子屋集会所和室の様子)



Facebook post from 団地の寺子屋 (4時間前). The post text reads: "2022年3月14日(月)午後5時~6時、集会所和室で「だんだん食堂」令和3年度第4回勉強会を小野千佐子先生に来ていただいて開催。「子育てサロン」が始まった当初に参加してくれていたママや「だんだん食堂」が始まって以来のママ、今日が始めのママもみんな一緒に「フラット」に、3年後から5年後の大学生が溢れる街森之宮を思い浮かべてスリーなディスカッションを進めました。" The post includes a "いいね!" button and a share button.

⑧ 子ども支援物資配布活動に協力 (令和4年3月14日午後4時~6時、団地の寺子屋集会所和室)



Facebook post from 団地の寺子屋 (4時間前). The post text reads: "2022年3月14日(月)集会所和室南側では月曜・金曜週2回定例の「子育てサロン」も開催されています。午後4時からは生活支援物資(お米)の配給もしました。各家庭子ども1人毎に5kgが登録制で配給されました。搬入から配布まで世話人さんたちお疲れさまでした。(写真提供子育てサロン) こちらも見てね。" The post includes a URL: <https://www.facebook.com/団地の寺子屋子育てサロン-431506593912794> and a "いいね!" button.

添付書類追加

⑨ 第1回・第2回研修事業の予定を掲載した1月行事予定表

「寺子屋通信」2022年1月1日「団地の寺子屋」K1



2022年1月行事予定

活動のテーマ「幼老共生ケアと地域大家族」
「持続可能な地域活動」

「麻雀倶楽部」は月曜・金曜の午後2時から試験的に実施しています。

	午前の部	午後の部
7日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「童謡・唱歌倶楽部」定久弘子さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
10日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
14日(金)	10時30分～「スクエアステップ体操」 木村拓也さん	1時～3時「川柳倶楽部」、尾崎文子さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 4時～6時「だんだん・多世代交流サロン」
17日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」
21日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「リズム体操」柿谷益美さん	1時～3時「紙芝居クラブ」、柿谷益美さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
24日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
28日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「書道倶楽部」、出利葉孝さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
31日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」

土曜日開催の「もりこくサロン英語教室、日本語教室」の開催日時などについては各ライン連絡網をご確認ください。



← 12月17日の「高齢者スマホ教室」の様子。定員をオーバーする申し込みがあり盛況。フォローアップ研修が待ち遠しいです。

12月3日の「童謡・唱歌倶楽部」。歌声を聞きつけた子育てママや子どもたちも熱唱。→



⑨ 第3回研修事業の予定を掲載した2月行事予定表

「寺子屋通信」2022年2月1日「団地の寺子屋」K2



2022年2月行事予定

活動のテーマ「幼老共生ケアと地域大家族」
「持続可能な地域活動」

コロナ感染対策のため、第1・2週の高齢者向け行事及び2月中の「麻雀倶楽部」を中止

	午前の部	午後の部
4日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「童謡・唱歌倶楽部」定久弘子さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
7日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
11日(金)	10時30分～「スクエアステップ体操」 木村拓也さん	1時～3時「川柳倶楽部」、尾崎文子さん 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 4時～6時「だんだん・多世代交流サロン」
14日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」
18日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「リズム体操」 柿谷益美さん	1時～3時「紙芝居クラブ」、柿谷益美さん 1時半～2時半「体験マッサージ教室」 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
21日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
25日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「書道倶楽部」、出利葉孝さん 3時～3時半「団地の寺子屋運営会議」 2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」
28日(月)		2時～6時「子育てサロン」、2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」

↑コロナ禍の進展具合によっては予定の変更もありません。土曜日開催の「もりこくサロン英語教室、日本語教室」の開催日時などについては各ライン連絡網をご確認下さい
大田伸廣さん制作のおめでたいお年賀のかけ絵です →
12月25日の「子育てサロン・だんだん食堂」のクリスマス会の様子。コロナ禍で「地域食事会」はできませんでしたが、お菓子がたくさん配られました。お母さんありがとう↓



⑩ 第4回研修事業の予定を掲載した3月行事予定表

「寺子屋通信」2022年3月1日「団地の寺子屋」K2



2022年3月行事予定		活動のテーマ「幼老共生ケアと地域大家族」 「持続可能な地域活動」	
「麻雀倶楽部」は三密が長時間続くので中止。ただしコロナ禍の進展具合によっては予定の変更もあり得ます			
午前の部		午後の部	
4日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「童謡・唱歌倶楽部」 定久弘子さん 2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」	
7日(月)		2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」	
11日(金)	10時30分～「スクエアステップ体操」 木村拓也さん	1時～3時「川柳倶楽部」、尾崎文子さん 2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」 4時～6時「だんだん・多世代交流サロン」	
14日(月)		2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」	
18日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「リズム体操」 柿谷益美さん 12時30分～「団地の寺子屋役員会」	1時～3時「読書・音読倶楽部」、柿谷益美さん 1時半～2時半「体験マッサージ教室」 2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」	
21日(月)		2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」	
25日(金)	10時30分～「楽しかった話・懐かしい話」 11時～「いきいき百歳体操」 奥平徳男さん	1時～3時「書道倶楽部」、出利葉孝さん 3時～3時半「団地の寺子屋運営会議」 2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」	
28日(月)		2時～6時「子育てサロン」、 2時～「麻雀倶楽部」 5時～6時「だんだん食堂研修会」	

↑「もりこくサロン英語教室、日本語教室」の開催日時などについては各ライン連絡網をご確認下さい



← 2月11日「川柳倶楽部」は今回も活動継続に重きを置いて、三密を避けて集会室前の廊下に出て短い時間ですが対面形式で「投句会」を実施しました。



1月17日(1回目)、1月31日(2回目)に続く2月14日(3回目)「だんだん食堂」勉強会の様子。コロナ禍のため「食堂事業」は中止していますが、「研修事業」は予定通り4回実施です。「だんだん食堂の活動継続」について小野講師と話し合う参加者たち。→

2020年度 助成事業報告書（表紙）

西暦	2021	年	6	月	30	日
----	------	---	---	---	----	---

公益財団法人大阪コミュニティ財団御中

団 体 名	団地の寺子屋(多世代交流サロン)	
代表者	役 職	世話人代表
	氏 名	松井 宏悦 (印)
所在地	〒	536-0025
	住 所	大阪市城東区森之宮2-9-604
	電 話	06-7897-1719

2020年4月に助成を受けた事業について、下記のとおり必要書類を添えて報告します。

1 助成事業の名称	みんなの居場所における「子ども向け学習支援」と「子育て世代向け就労支援」活動						
2 助成金交付決定額	100,000	円					
3 助成事業の完了日	西暦	2021	年	3	月	31	日
4 連絡先							
事業担当者	役 職	団地の寺子屋 事務局		ふりがな	おかだ ゆたか		
	電 話	080-6173-5092		氏 名	岡田 裕		
				E-mail	yutac2000@ybb.ne.jp		
5 提出必要書類（（1）（2）（3）（4）は必須）（提出書類に○）							
<input type="radio"/>	(1) 助成事業の事業内容および成果（要約）						
<input type="radio"/>	(2) 助成事業の実施内容および成果（本報告書）						
<input type="radio"/>	(3) 助成事業の収支報告書						
<input type="radio"/>	(4) 支出明細書および助成金をカバーする支出分の領収書のコピー						
<input type="radio"/>	(5) 事業活動に関する写真（2部）						
<input type="radio"/>	(6) 助成基金名、当財団名を表示した印刷物（2部）						
<input type="radio"/>	(7) 助成事業を紹介した新聞記事、HPコピー等（あれば）						
<input type="radio"/>	(8) 助成事業を紹介した貴団体が発行した印刷物等（あれば）						
<input type="radio"/>	(9) その他（ ）						

助成事業の実施内容および成果（本報告書）

① 助成した基金の名称、助成事業の名称、団体名、代表者氏名

助成した基金の名称：山口淑子友愛基金

助成事業の名称：みんなの居場所における「子ども向け学習支援」と「子育て世代向け就労支援」活動

団体名：団地の寺子屋（多世代交流サロン）

代表者氏名：松井宏悦

② 実施した事業の内容

<事業の目標・目的>

「幼老共生ケアと地域大家族」をテーマとしたごちゃませのみんなの「居場所」寺子屋本体活動に第一の柱「子育てサロン」活動、第二の柱「だんだん食堂」活動を増やしてきた。第三の柱として立ち上げた「もりもり教室」活動を、本事業である「子ども向け学習支援」と「子育て世代向け就労支援」活動で土台固めをして確立させ、森之宮の地域福祉活動をより豊かなものにするのが本事業の目標・目的である。

<事業の手段・方法>

「もりもり教室」活動では、子どもたちが30年後に活躍するときに必要な「人としてのコミュニケーション基礎力」を ①「国際コミュニケーション基礎力」と ②「多世代コミュニケーション基礎力」の2つのコースで学習支援することとした。今回は①のコースを切り離し、②の「多世代交流」に人的資源と資金を集中させて成果をあげることにする。高齢者世代や多少だが時間の作れる子育て世代の地域住民の中から事業に興味のある人で集まってグループをつくり、子ども向けの学習支援のための教材開発を2019年度後半からスタートさせている。このようにして「団地の寺子屋」という居場所の中で、「子ども向け学習支援」の内容を準備し、その学習支援を有償ボランティアとして実施してくれるような「子育て世代向け就労支援」の仕組みを2019年度に準備した。しかし資金源が尽きたので継続して地域福祉活動を継続させていくために大阪コミュニティ財団へ2020年度資金助成の申請して受諾してもらうことができた。

事業の手段・方法として本年度は、<第1フェイズ>：「子供向け学習支援の内容」として小学校でも新しく学習内容として取り入れられることとなったICT活用の「プログラミング」を取り上げ、地域の高齢者を中心として参加を呼びかけ講師を囲んで10回の学習会を開き、教材開発に取り組む。

<第2フェイズ>：開発した教材を使って、実際に子ども対象の10回の学習会を開催する。高齢者世代や子育て世代が子どもたちの学習のファシリテーター役となって多世代交流による学習支援方式を実験的に実施する。

<事業の対象・場所・期間など>

事業の対象者は「団地の寺子屋」に集う高齢者世代、子育て世代、子ども世代（幼児・小学生）とする。

事業の場所は「団地の寺子屋」（UR森之宮第2団地6号棟集会所）とする。

事業の期間など

▲第1フェイズ

9月4日（金）から11月6日（金）までの毎週金曜日午後4時から6時まで全10回

高齢者世代を中心に子どもたちとICT（プログラミング）を学ぶことに興味を持った人で学習会を持つ

▲第2フェイズ

11月20日（金）から1月29日（金）までの毎週金曜日午後4時から6時まで全10回

「団地の寺子屋：子育てサロン」に集う親子にタブレット学習会参加を呼び掛ける

高齢者世代（学習会参加）が中心となって母親世代にICT（プログラミング）の学習支援方法を伝授

毎回、子ども世代・母親世代・高齢者世代が一緒になってICT（プログラミング）の学習会に取り組む

③ 具体的な成果

<教材開発について>

▲子どもたちに使用させるICT機器についてOSで機種選定をし、iPadを選択した

理由：母親たちに普及しているICT機器であるスマートフォンと同じ操作性を重視した

▲幼児向け教材として code.org を選択した

理由：アメリカで開発されたK-12向けのプログラミング教材。日本語化されておりネット上で無料で利用可

▲小学生向け教材として scratch/mit.ed を選択した

理由：MITで開発された小4以上向けのプログラミング教材。日本語化されておりネット上で無料で利用可

▲高齢者世代には災害時や安否確認の道具としてスマホの有用性が再確認された

▲子ども世代・子育て世代にとっては日本語入力機能習得の重要性が再確認された

<学習支援について>

高齢者世代向けのICT操作技術学習にあたっては、週1回の学習支援では時間不足。

自宅へのICT機器の貸出制度の創設が必要不可欠と確認された。

子ども世代や子育て世代向けには自宅にも同様のICT機器があり貸出制度はほぼ不要

子どもへの学習支援は我が子を担当しないほうが学習が効果的に進むことを確認
オンラインによる学習支援は繰り返し視聴に動画は効果的だが、学習意欲面では対面がよい

<学習時間について>

学校の一斉学習のように決まった時間から一斉に学習を始めるわけではない
子育てサロンで自由に時間を過ごしている子ども達が遊びの一つとしてICT(プログラミング)を選ぶ
目の疲れなどを考慮して、一人1回30分を限度に学習時間としている

<費用について>

地域福祉活動の一環として実施しており教材開発や学習支援に助成金があるので無償で実施
「継続できる地域活動」を考えると地域住民や行政からの応分の負担も必要であろう

④ 当該事業の今後の方針

2019年度の助成金で事業に必要な備品類の購入と初期段階の教材開発ができた
2020年度の助成金で事業実施に必要な教材開発がほぼ完成した
2021年度は助成金が得られたならば教材開発を次の段階に進めたい
次の段階とは「地域物語」の教材開発である
ICT「プログラミング」では国際標準となっているプログラミング教材を選定して事業を進めた
「地域物語」の教材開発では子ども世代と子育て世代、高齢者世代が一緒になって森之宮地域の歴史や
地理などの情報をICT機器を活用して多世代交流しながら「地域物語」として共同編集する
「地域物語」の標準的な教材開発が完成したら、それを使って他地域で制作した「地域物語」とも交流する
子どもたちが「人としてのコミュニケーション基礎力」をますます伸ばせるように教材開発と実践を深める

⑤ 成果の発表

「団地の寺子屋」のフェイスブック広報『団地の寺子屋』(週刊)、紙媒体広報誌『寺子屋通信』(月刊)で
事業の成果を都度ごとに広報している
大阪市総合生涯学習センターが地域におけるICT活用に好事例として注目してくれている
大阪市城東区のまちづくりセンターが街づくりの好事例として注目してくれている
大阪市と城東区の広報誌にコロナ化が収まったら本事業のプレリリースを送付する

⑥ その他、特記事項

2021年度からすべての小学校に個人用のICT機器が整備され子ども一人に1台の端末が配布された
しかし学校によって準備度に差がありICT教育に格差が生じている現実も多く報道されている
この格差を補うのが、本事業のような地域の「生涯学習」の力だ
本事業のような実践が、総務省の推奨する「地域ICTクラブ」を実現させる原動力になると確信している
ぜひ継続して助成金を確保して「地域物語」の教材開発をさらに進めたいものである

事業活動に関する写真1



フェイズ1:高齢者中心の学習会の様子1



フェイズ2:子どもとママ世代中心の学習会の様子1

事業活動に関する写真2



フェイズ1:高齢者中心の学習会の様子2



フェイズ2:子どもとママ世代中心の学習会の様子2

事業活動に関する写真3

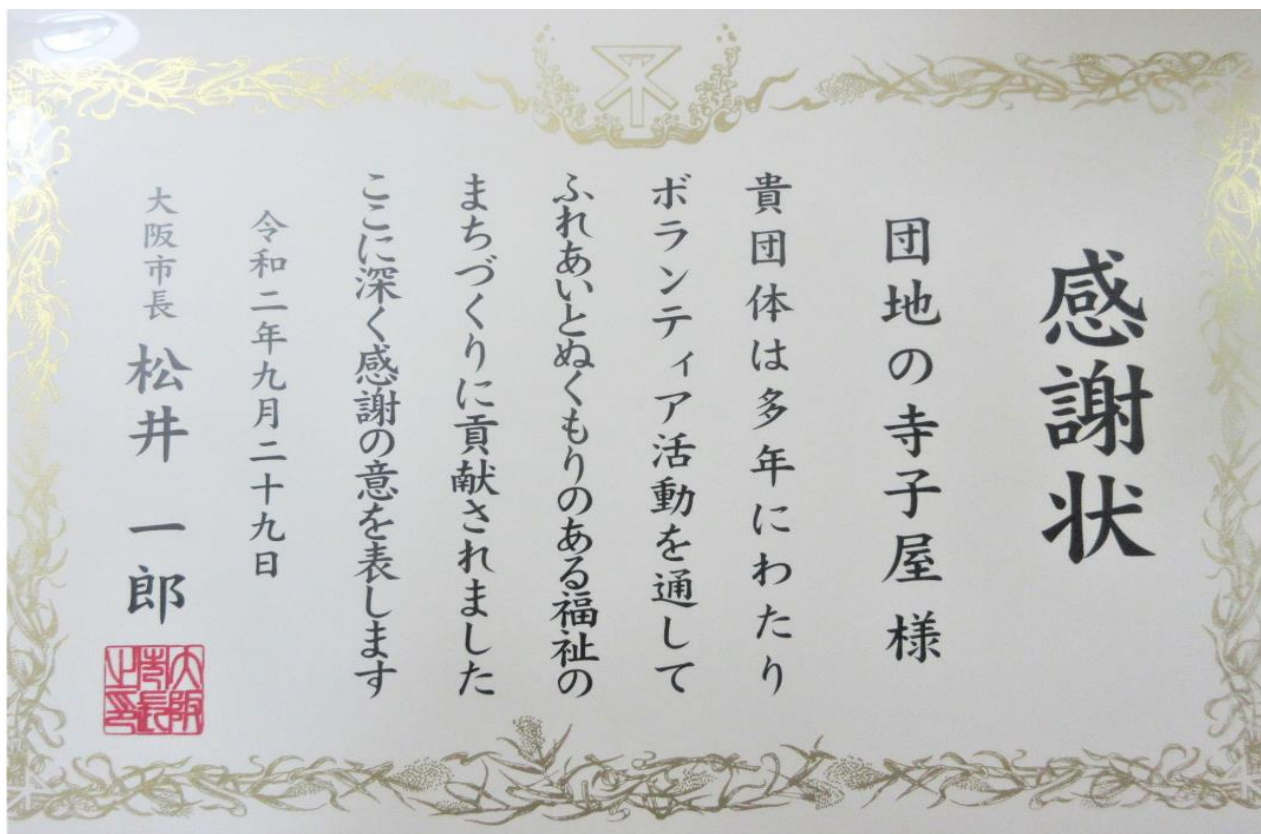


フェイズ1:高齢者中心の学習会の様子3

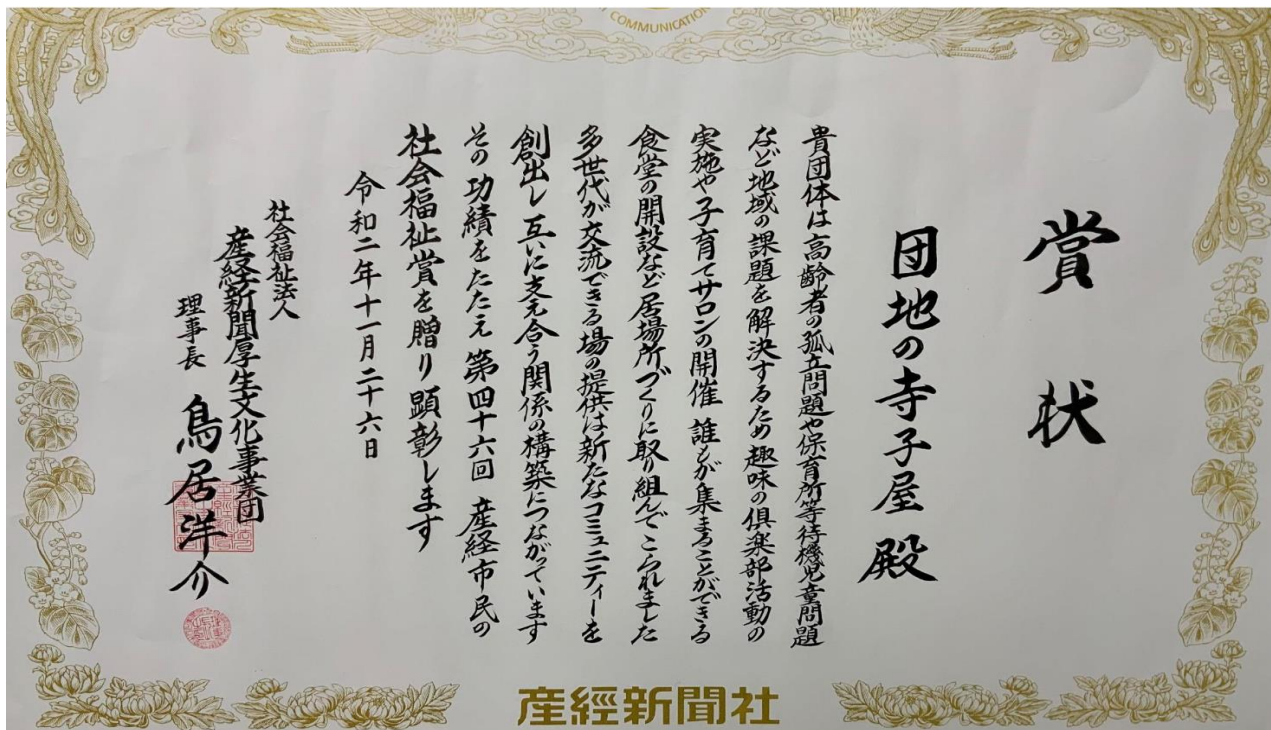


フェイズ2:子どもとママ世代中心の学習会の様子3

事業活動に関する写真4



本事業を含む「団地の寺子屋」の活動全体が大阪市長から表彰されました



本事業を含む「団地の寺子屋」の活動全体が産経新聞から表彰されました